

●中東ドーハで初ものづくりの日本ブース

culture

カルチャー



ドーハ・ブックフェアでの「カワイイ」ファッションショー

〈次回は4月19日に掲載します〉

昨年12月、カタールの首都ドーハで23回ドーハ・インターナショナル・ブックフェア(政府主体)が開催された。そこでファッションショーを企画プロデュースした。ロリータから原宿系、ガリーまで日本の5ブランドによるショー、テーマは「カワイイ」。

モデルは在住外国人

毎年ゲスト国が選ばれるが、昨年は日本で、その日本ブースでは様々なイベントを私が企画・プロデュースすることになった。ファッションショーのほかには、コスプレイベント、人気若手女性声優のトークイベントなども実施。日本人声優イベントの中東での開催は初、コスプレイベントも不特定多数の人が集まる場所では初開催だった。ファッションショーもこうした場所での開催は初めて、要は初ものづくりのイベントプロデュースとなったわけである。

トラリア人、韓国人、スーダン人、日本人など多彩な顔触れでのショーになった。カタール人女性は顧客としての参加である。女性ならではの参加である。

日本企業の可能性

カタールでの休日となる金曜、土曜の夜にショーを実施し

文化外交からみえるファッションの可能性

性だけの場所を除き、アパヤという民族衣装を身につける必要がある。ゆえにファッションショーのモデルは、ドーハ在住の外国人たちからオーディションで選んだ。アメリカ人、オース

たが、大盛況だった。ショー用の衣装のため販売することはできなかったのだが、「買えないのか？」というカタール人女性からの熱いリクエストを多数もらった。

女性だけが集まるという機会はたくさんあり、その場ではカタール人女性に実在華やかな衣装を身につけているようだ。実際に着ている姿は見られないが、ショッピングセンターに行けば服は売られているわけで、その様子は容易に想像できる。ファッションショーを見つめるカタール人女性のうっとりとした顔をステレオサウンドから見たら、日本ファッションの大きな可能性を改めて感じた。

中東は多くの日本人、特にファッション業界にとって精神的にとっても遠い地域。中東とひとくくりで考えてしまう人が多いが、アジアの国々がそれぞれ違うように中東の国もまた違った個性を持っている。プロデューサーとして中東に向き合っていくジャンルの一つはファッションだと思っている。一緒にやってみようと思う企業の方がいれば、ぜひフェイスブックなどでコンタクトいただければと思う。

(櫻井孝昌「プロデューサー」)

東日本大震災2年

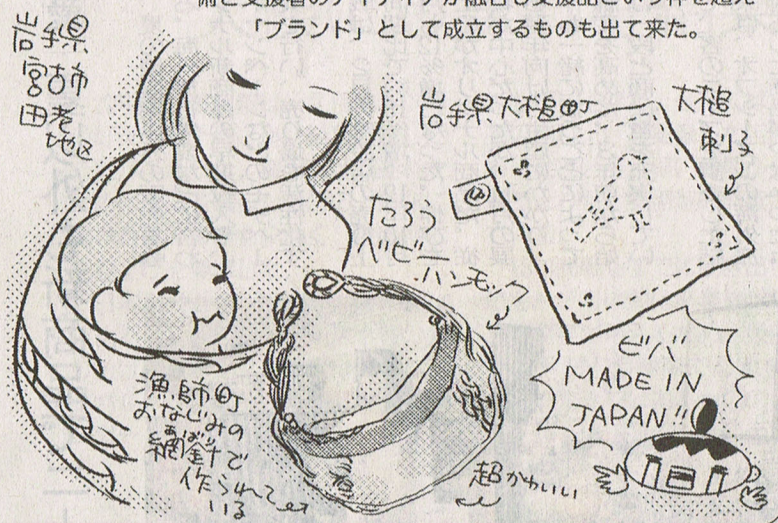
『つながり消費』広がる

作り手と交流、国産回帰・・・ 3月11日付

東日本大震災から2年。未曾有の大震災は被災地の人々の暮らしを一変させただけでなく、被災地以外の生活者の意識にも少なからず変化をもたらした。そして、被災地で相次ぎ生まれる『復興雑貨』が存在感を増している。地域に伝わる技術と支援者のアイデアが融合し支援品という枠を超え「ブランド」として成立するものも出て来た。

センケン
紙面より

喜多桐スズメ



Art × ファッション
アート × Fashion

「ラファエロの聖母」は絵画のお手本?

ラファエロの《大公の聖母》を「どこかで見たことがある絵」と感じる人は多いのではないだろうか。それは彼が「優しい聖母の画家」として完璧な美しさを完成させ、数多くの宗教画がラファエロ調に描き、それを目にする機会が多いからだろう。

1504年、ダヴィンチとミケランジェロが技を競っているフィレンツェに、ラファエロは小都市ウルビーノからやってきた。

すでに指導者ペルジーノの工房で頭角を現していた彼の「現実の世界を超えた穏やかな調和の世界」は、何百年の間描き継がれていった。

19世紀半ば、イギリスで「ラファエル前派」というロセッティら若者の集団が生まれる。ラファエロが登場する以前に現るといって草新派で、自然を直視し、再現した絵画を目指した。理想化されたラファエロの絵画を手本としていたアカデミーに異議を唱えたのだ。後世の画家たちが規範とし、また批判もしたラファエロの「聖母」は、実は多くの習作から生まれた芸術的知恵の集大成である。

その「完成された美の型」を乗り越えようとした画家たちが、その後の美術史を創ったといっても過言ではない。

「ラファエロ展」は上野の国立西洋美術館で6月2日まで。

(中村宏美「アート・ミディアエイト」、中村デザインスタジオ代表)

とっておき ギャラリー/ミュージアム

◆五十嵐健治記念洗濯資料館



〈メモ〉東京都大田区下丸子2の11の1、白洋舎事務棟3階▽電話03・3759・1336▽東京都摩川線下丸子駅下車徒歩7分▽開館時間10時17時▽休館日は土・日曜・祝祭日・年末年始▽入館料無料(工場入口の守衛所で資料館見学の旨を伝える。20人以上の団体は2週間前後までに洗濯科学研究所へ要申し込み)

今年で107年の歴史を持つ白洋舎(五十嵐素一社長)の創始者・五十嵐健治氏は、1906年東京・日本橋呉服町に白洋舎を創業。かねてから「世のためにご奉仕できる仕事したい」という思いから、またクリスチャンであった氏は、当時三井呉服店(現三越)勤務から転身しての起業であった。戦前・

白洋舎の歴史を紹介するほか、洗剤代わりに用いられた植物や煮釜、火のし、古いアイロンや和服の洗い張りの様子など洗濯の歴史に関する展示、厚い洗濯板、洗いおけ、卓上シャツプレス機、手回し脱水機、帽子や毛皮などをクリーニングする際の道具、初期のものと同型の内部が木製のドライク

クリーニ

スゴイ「節税」

GTAC 編著

〈中小企業に効く節税策の数々を伝授〉 税理士や金融機関出身のスペシャリスト集団が究極の節税方法を提案。日本を取り巻くのは消費税、先進国の中でも高い法人税など、大増税時代へ突入。従業員にも喜ばれ財務強化にもつながる一挙両得の節税対策とは? 接待・福利厚生、原価償却、決算対策、生命保険などの考え、提案方を変え、節税対策が見える。(幻冬舎)03・5411・6022/1400円

日本人にマネできないアジア企業の成功モデル

増田辰弘 馬場隆 著

〈アジアでのビジネスを成功に導くヒントを紹介〉 法政大学経営革新フォーラム事務局長で「アジアビ

だから中小企業のアジアビジネスは失敗する

近藤 昇 著

〈これからの中小企業のアジアビジネスのカギを提唱〉 中国のリスクヘッジ、チャイナプラスワンとして、ベトナム、インドネシア、タイ、マレーシアの国が挙がる。成長

中国市場の真相

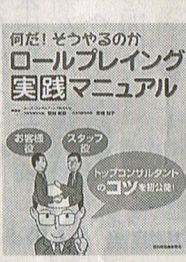
川出圭司 著

〈縮む日本、伸びる中国マーケットは救世主となるか?〉 著者は長年繊維・衣料会社で海外仕入れ・調達、新規事業立ち上げなどの経験を持つ。この実績から本書には、中国進出の成否を分けるポイントを実体的な企業事例から解説。イオン、イトーヨーカ堂、セブンイレブン、ユニクロ、味千ラーメンなど世界企業から専門店まで進出企業実例16社を網羅。中国市場の概要を理解し、中国の消費者満足を実現するための指南書。(商業界)03・3224・7478/1524円

何だ!そやらのか ロールプレイング 実践マニュアル

黄谷新吾/宮崎聡子 著

〈事前練習で本番に備え、打率を高めるコツ初公開〉 「ロールプレイング」はやっているが上手いかわからない、すぐにマンネリになる...どうしてだろうか。ロールプレイングが



案。コンサルタントとして